

## 事務局通信

## 第 29 回 日本熱帯生態学会年次大会案内

## 【1 ページ】

JASTE29 大会案内を掲載しました。

## 【学会ウェブサイト変更】

2月1日より、日本熱帯生態学会ウェブサイトのアドレスを変更しました。今後は、以下のサイトで情報発信を行います。

<https://www.jaste.website/>

**大会会長** : 大崎 満

**大会実行委員**: 露崎史朗, 甲山隆司, 平野高司, 井上京, 波多野隆介, 藤井賢彦, 高橋英紀, 小池孝良

**日 時**: 2019年6月14日(金)編集委員会, 評議会

6月15日(土)一般発表セッション, 総会,

吉良賞授賞式・講演, 懇親会

6月16日(日)一般発表セッション, 公開シンポジウム

**会 場**:

大会・委員会: 北海道大学大学院環境科学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

**懇親会**: 北海道大学中央食堂

**大会ウェブサイト**: <http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~jaste29/>

地図, 交通, 最新情報, 英語での情報は, 上記ウェブサイトをご参照ください。大会当日まで随時更新していきます。

**大会事務局**: 〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学大学院環境科学院内 JASTE29 実行委員会

電子メール: [jaste29@ees.hokudai.ac.jp](mailto:jaste29@ees.hokudai.ac.jp)

電話: 011-706-2283 (露崎史朗)

**公開シンポジウム: 「湿地・泥炭地を巡る炭素の話」**

**日時**: 2019年6月16日(日) 13:00~16:00(予定)

**会場**: 北海道大学大学院環境科学院 D201 大講義室

熱帯から北極域まで広く分布する湿地は豊かな生物多様性を有するとともに、気候調節、水量・水質調節、自然景観の保全など、多くの生態系サービスを提供してきました。最近では、温暖化との関係で、湿地の持つ炭素蓄積機能が注目を集めるようになりました。中でも、泥炭地は膨大な量の有機炭素を土壤中に蓄えています。しかし、人為的な環境攪乱によって泥炭炭素の脆弱性が高まり、泥炭地が二酸化炭素排出のホットスポットになることが危惧されています。アジアには、南北に連なって熱帯泥炭地、マングローブ林、中高緯度の泥炭地および永久凍土地帯(ツンドラ)という高密度炭素生態系(湿地)が存在しています。本シンポジウムでは、それぞれの湿地生態系における炭素の動態、蓄積、攪乱、保全などの「炭素を巡る話」を4名の講師にさせていただき予定です。湿地・泥炭地の炭素の現状について理解が深まるとともに、将来についても考える時間になることを期待しています。

## 掲載記事

- 1 事務局通信  
JASTE29 大会案内
- 3 書評 藤田知弘

### 学会間連携:

第29回日本熱帯生態学会年次大会では、関連分野の研究者との交流を深めるために、次の7つの学会と連携して大会を実施します:

日本アフリカ学会、日本サンゴ礁学会、日本マングローブ学会、日本タイ学会、日本熱帯農業学会、日本泥炭地学会、東南アジア学会(これら連携学会の会員は、当学会の会員と同条件で研究発表できます)

### 優秀発表賞:

今大会では学生や若手研究者を対象とした優秀発表賞を口頭発表とポスターの双方で設定します。複数のレフェリーによる厳正な審査を行います。審査基準など詳細は、大会ウェブサイトで後日公開します。同制度へエントリーする場合には、大会参加申し込みの際に所定欄にチェックをお願いします。

### 参加申し込み:

大会ウェブサイト <http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~jaste29/> から参加申込書をダウンロードし、必要事項を漏らさず記入の上、JASTE29 大会事務局 <[jaste29@ees.hokudai.ac.jp](mailto:jaste29@ees.hokudai.ac.jp)> に電子メールで送付してください。電子メールでの送付が難しい場合は、実行委員会までご相談ください。なお、発表者は日本熱帯生態学会会員と上記の連携学会会員および「**JASTE 国際交流学生枠**」の対象学生に限ります。これらに該当しない方で、研究発表を希望する場合は、JASTE 会員管理窓口 <[jaste@soubun.com](mailto:jaste@soubun.com)> に連絡し、事前に会員登録を行ってください。

研究発表される方は大会参加申し込みを **4月19日(金) 17時**までに済ませてください。  
要旨提出締め切りは **5月7日(火) 12時**必着です。

### \*\*「JASTE 国際交流学生枠」の要件:

- 1: 日本熱帯生態学会会員の所属する大学及び研究機関が国際交流プログラム等で公式に受け入れた海外の大学の学生であること。
- 2: 当該プログラムにおいて日本での滞在期間が6か月未満の学生であること。
- 3: 大会実行委員会が認めた学生であること。大会実行委員会は当該大学あるいは研究機関に属する会員の推薦に基づき判断する。本枠に学生を推薦される会員の方は、事前に大会事務局までご連絡ください。

### 講演要旨:

研究発表をされる方は、講演要旨を A4 用紙 1 ページにまとめ、5月7日(火)12時までに大会事務局 <[jaste29@ees.hokudai.ac.jp](mailto:jaste29@ees.hokudai.ac.jp)> あて電子メールで添付ファイルとしてお送りください。ファイル形式は MS Word (.docx)を用いてください。講演要旨は、以下の様式で作成願います(そのまま印刷します)。

- ・ 余白は上下左右とも 25 mm.
- ・ タイトル(第1行)と氏名・所属(第2行)は、更に 25 mm 下げる(用紙左端からは 50 mm).
- ・ 発表者の氏名の右上に°印をつける。
- ・ 本文は氏名・所属(第2行)の後に1行あけて印字する。
- ・ 図表を挿入する場合は白黒とし、余白からはみ出ないように貼り込む。

### 参加費:

前納大会参加費:	一般 5,000 円/学生 2,500 円
前納懇親会費:	一般 5,000 円/学生 2,500 円
当日申込み参加費:	一般 6,000 円/学生 3,000 円
当日申込み懇親会費:	一般 6,000 円/学生 3,000 円
講演要旨集のみ希望:	2,000 円(大会後郵送いたします)

- ・前納された費用はお返しできません。当日欠席された方には、講演要旨集を1部お送りします。
- ・費用前納に係る領収書は、「払込取扱票の受領書」もしくは「銀行等の受領書/領収書」などをもってかえます。

**発表参加申し込みと前納送金の締め切り:**

発表参加の申し込み, 参加費・懇親会費の前納は, すべて **4 月 19 日(金)**とします.

**郵便局から郵便為替による送金:**

口座番号: 02770-9-50567

口座名: JASTE29 (カナ): ジャステニジュウキュウ

※郵便局で青色の払込取扱票を使用して下さい.

※払込取扱票の通信欄に, 必ず送金内訳(一般/学生の別, 参加費/懇親会費の有無/要旨集代の別)を記載して下さい.

**銀行からの振込みによる送金:**

銀行名: ゆうちょ銀行

店名: 二七九店(ニナナキュウ店)

口座種類: 当座

口座番号: 0050567 口座名(カナ): ジャステニジュウキュウ

※ 銀行送金の場合には, 必ず振込時にメールで氏名, 送金内訳(一般/学生の別, 参加費/懇親会費の有無/要旨集代の別)を実行委員会 <jaste29@ees.hokudai.ac.jp> に連絡して下さい. メールの件名は「送金内訳」として下さい. メール送付に困難のある方は実行委員会までご相談ください.

**託児サービス:**

本大会では, 会期中の託児サービスを提供する予定です. 詳細は, 大会ウェブサイト随時掲載予定です.

**書評****アフリカ文化探検—半世紀の歴史から未来へ—**

田中二郎著. 2017 年. 754pp. 京都大学学術出版会(価格:3,600 円+税, ISBN 4814001126)

**Book review** *Exploring African cultures*. By TANAKA Jiro. 2017. Kyoto University Press, Kyoto, 754pp.

藤田知弘(特別研究員・国立環境研究所)

FUJITA Tomohiro (Research Associate, National Institute for Environmental Studies)

人類学者の田中二郎が約半世紀にわたる自身のアフリカ研究の軌跡を記したのが本書である. およそ 5cm の本書の厚みに辞書か! と突っ込みを入れたくなかったが, 読み進めると調査風景やアフリカでの生活が細かく描写されていて, まるで自分がその場にいるかのような臨場感を味わうことができた. 半世紀前のできごとをまるで昨日のことかのように記載している様には驚かされた. また, 本書にはカラー写真がふんだんに掲載されており, 当時の様子を詳細に知ることができる. これで 3600 円(税別)はお買い得だ! 以下では本書の構成と内容の一端を紹介したい.

第 1 部は著者の 1960 年代, 70 年代の研究初期の成果, すなわち, ボツワナでのブッシュマンの生態人類学的研究についての成果が中心に記されている. 二度の調査から明らかにされたブッシュマンの狩猟採集生活の実態や集団維持機構が克明に記されている. また, 当

時のボツワナの様子やご家族とともに調査地に滞在されたことで得られた新たな知見について, また, 隣国南アフリカで経験したアパルトヘイトなどについても記されている.

第 2 部では舞台を東アフリカに移し, 牧畜民研究にとりくんだ様子が記されている. 特にケニアの半砂漠地帯に住むラクダ遊牧民レンディーレ研究に注力する. また, この時期に行ったタンザニアのチンパンジーやコンゴの狩猟採集民ピグミー等の調査についても紹介されている. さらに, 第 2 部では自身のブッシ



ヒューマン研究やレンディール研究, 他の研究者が行ってきた研究成果を包括的に分析し, 人類の進化やアフリカの地に暮らす人類の適応について興味深い考察がなされている。

第3部および第4部ではボツワナに戻り, 再びブッシュマン研究に注力した成果が記されている。1980年代, 政府の政策によりブッシュマンの生活は大きな変化を余儀なくされることとなる。政府はそれまで広範囲を移動しながら生活していたブッシュマンを一箇所の居住地へ強制的に移住・定住化させた。激変するブッシュマンを自身の研究だけでなく, 他分野専門家や大学院生の成果も交え多角的に描写している。

全体として平易かつ丁寧な文章で読みやすく, さらにアフリカでの様々なエピソードが読み手を引き込む。章末にはアフリカ人類学百科と銘打った解説ページがあり, 基礎知識や用語の詳細な説明が丁寧にされている。よってアフリカや人類学に知識がなくても難なく読み進めることができるだろう。

本書で1つ気になったのは”適応”という用語の使い方だ。生態学における”適応”と一般用語としての”適応”

が本書では混在しているように思える。本書のどこかでこれについての説明があっても良かったと思う。

アフリカには奴隷貿易や植民地といった暗黒の歴史がある。最近ではビジネスパートナーとしてのアフリカがメディアで登場することもあるが, 多くの日本人にとり, アフリカはまだまだ遠い存在だ。評者は人類学を専門とするものだけでなく, アフリカに興味をもったあらゆる方々に本書を勧めたい。きっと教科書やメディアの情報からは伝わらないアフリカの生の姿を垣間見ることができるだろう。

最後に本書で個人的に印象に残った文章の一つ(683p)を紹介し, この書評を終えたい。

”アフリカ大陸は広く, そしていろんな意味で雄大であった。アフリカ諸国はいま実にさまざまな困難を抱えている。しかし, アフリカの人々はめげずに生き抜き, そして底抜けに明るい。あの明るさがあるかぎり, アフリカは永遠に生き続けるだろうと私には思われるのである。”



### 編集後記

1月下旬に京都市動物園で開催された講演会でサイチョウに関する話題提供をしてきました。京都市動物園を訪問したのは10年ぶりです。ずいぶんと園内設備が更新されていました。わたしが学部生の頃(25年前!)には, こちらのボランティア組織に所属しており, よく遊んでいたオウムたちにも再会することができました。メスのキバタンは1974年3月1日に来園, オスのオオバタンは1967年8月29日に来園しており, わたしよりも年上ですが, 2羽とも以前と変わらない姿で, ギャーギャーと出迎えてくれました。(北村俊平)

写真:京都市動物園のシロテテナガザルのシロマティ(2019年1月27日撮影)。

ニューズレターへの投稿は, 編集事務局: 北村(shumpei@ishikawa-pu.ac.jp)・百村(hyaku@agr.kyushu-u.ac.jp)へ。

### 日本熱帯生態学会事務局

〒739-8529  
広島県東広島市鏡山1-5-1  
広島大学国際協力研究科開発技術講座  
Tel & Fax: 082-424-6929  
E-mail: jaste.adm@gmail.com

### The Japan Society of Tropical Ecology

Department of Development Technology  
Graduate School for International Development and  
Cooperation, Hiroshima University  
1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima  
739-8529, Japan  
Tel & Fax: +81-82-424-6929  
E-mail: jaste.adm@gmail.com

### 日本熱帯生態学会ニューズレター 114号

編集 日本熱帯生態学会編集委員会  
NL担当: 北村俊平(石川県立大学)  
百村帝彦(九州大学)

### NL 編集事務局

〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地  
石川県立大学 生物資源環境学部  
環境科学科 植物生態学分野(C210)  
電話: 076-227-7478, FAX: 076-227-7410(代表)

発行日 2019年2月25日  
印刷 創文印刷工業株式会社 電話 03-3893-3692